

第1回浮体式洋上風力発電の海上施工等に関する官民フォーラム
(議事概要)

日時 令和6年5月21日 13:00～14:00

方法 オンライン

1. 事務局及び国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所より、資料に基づいて説明を行った。

2. 意見交換において、以下のような議論があった。

○論点は概ね整理されているように思う。港湾局と海事局の連携が現場レベル、研究レベルでも一層進むとよい。

○我が国における洋上での施工技術のレベルはまだ劣っているので、向上させていく必要がある。また、風車の組立を港の中で行うか、洋上で行うかにより、施工計画は大きく異なるので、この点も踏まえて技術開発をしていく必要がある。

○浮体式洋上風力の施工に必要となるサプライベッセル等の船舶は我が国では非常に少ないため、船舶の整備や確保が重要。また、アンカーハンドリングの経験もほとんどないため、施工に携わる人材の育成も課題。

○浮体式洋上風力の基地港湾の整備にあたっては、20～30年先のスパンで先を見越していく必要がある。

○浮体式洋上風力の普及拡大を実現するため、合理的な建設システムを構築する必要があるのではないか。日本独自のシステムが作れるのではないかと思っている。まずは、関係者が協調して進めていくのがよいのではないか。

○GI基金でも洋上風力発電の低コスト化に関する研究開発等が行われているが、どのように関係しているのか。

(→事務局より、本フォーラムは洋上風力発電を施工する立場から海上施工等に係る諸課題について検討していきたい旨を説明。)

以上